指導観：本校の考えるユニバーサルデザイン化された授業

わかりやすい授業とわかりやすい教材の工夫によって
「わかった！」「できた！」と子どもが実感できる授業づくり。

〔　仮　説　①　〕
ユニバーサルデザイン化された授業の工夫は、
すべての児童の主体性を伸ばすことができるだろう。

重点(1)学習活動の中で

◎ ユニバーサルデザイン化された学習活動の工夫

焦点化の工夫　視覚化や複線化の工夫　共有化の工夫
適用化と機能化の工夫　（数ある工夫のうち、本校の重点）

◎ 授業におけるミニマムスタンダードの共有
（教科・領域別 UD アイデア集の活用）

学校生活の中で　**重点（2）心温まる学級なかまとの協働の中で**　**地域社会の中でコミュニティスクールの基盤として**

◎ さまざまな他者との協働
→ 自己肯定感の高揚

①自己有用感
②自尊感情→他尊・互尊感情
③達成感・成就感

〔　仮　説　②　〕
さまざまな他者との協働を学習の中に位置づけることで、なかまとともに輝く・輝ける児童を育て、心あたたまる学級をつくることができるだろう。

教育観：本校の考えるインクルーシブ教育システム

どの子も、それぞれの個性が認められ、学ぶため、伸びるための教育的ニーズを把握され、　一人一人の学びに寄りそった教育が工夫される…
そんな学習活動や学級生活、学校生活や地域の中で児童を包み込むシステム。

「コミュニティ・スクール」を基盤とすることについて

家庭・地域とともに、子ども達の成長を支え、育てる青毛小学校の教育。

挨　拶

久喜市立青毛小学校
校長　　鈴木　清照

コロナ禍における新たな学校生活が開始された今年度。その中でも絶対に忘れてはならないこと、それは、心の密を避けてはいけないということです。このようなときだからこそ、人と人とのつながり、人と人との心のつながりを大切にしていかなければなりません。このことと同時に、私は、本校の重点目標の一つである「人にあたたかくて、人にやさしい学校」という理想を、これからも大切にしていきたいと考えています。

互いに相手の立場を考え、「あたたかさとやさしさ」を胸に秘め、『なかまとともに・・・』力を合わせ、人のために役立つことに喜びを感じられる、そんな子供たちを育てることが大切だと強く考え、さらに研鑽を重ねる所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

御指導いただいた先生

星美学園短期大学客員研究員（全国特別支援学級設置学校長協会参与）	服部　純一　様
東部教育事務所指導主事	瀬高　武夫　様
東部教育事務所指導主事	神田　美佐子様
松伏町立松伏第二小学校主幹教諭	柳橋　知佳子様

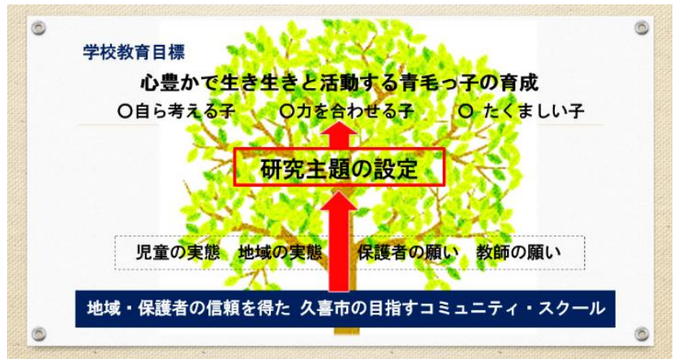
学校運営協議会

稲葉勇夫　井出建次　田中和男　川瀬琢也　青木朝子　小原英子　川瀬かい　鈴木清照　込江智子

研究に携わった本校職員

校長　鈴木清照　　教頭　込江智子　　主幹教諭　古田裕子
湯本美穂　佐藤いづみ　橘実沙　青木彩子　西潟諒介　小澤美咲　石合武
半田智彦　髙野孝行　野本睦美　義見知大　箭川和美　金子友絵
笠井隆一　倉田ひとみ　天野暁子　木本恵理子　中山敏江　吉野優子
浅井映子　市川恵　イアン　笹野賢重　渡部和加代　関根敏雄　折原貞夫

研究方針



研究主題
コミュニティ・スクールを基盤としたインクルーシブ教育システムの確立
～　なかまとともに輝く・輝ける子の育成を目指して　～

令和２年度

研　究　紀　要

久喜市の　教育スタンダードを目指して

～　インクルーシブ教育で　笑顔いっぱいの学校へ　～

久喜市立青毛小学校
AOGE ELEMENTARY SCHOOL

〒３４６－００１１　埼玉県久喜市青毛８００
ＴＥＬ　０４８０－２２－２１２５
ＦＡＸ　０４８０－２４－１７７３

学習活動の中で（授業のユニバーサルデザイン化を中心に）

高　主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に参画しようとする児童。

中　実生活から問いを見出し、自分の課題や見通しを立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現しようとする児童。

低　意欲や自信をもって、学んだり生活を豊かにしたりする児童。

焦点化の工夫

【５年生・体育】
教具の工夫やルールの簡易化。ねらいに迫るため、活動を焦点化。

【６年生・国語】
教師自作のモデルを提示。学習のゴールを具体的に掴ませる。

【３年生・学級活動】
活動を絞り、自分の考えの作成(入力)と友達との交流とを分けた２時間構成。

ねらいや活動の焦点化による参加の促進。児童が自ら学びに向かう入り口を広げた。

【１年生・国語】
ねらい達成へ、読解(理解)と音読(表現)とを１時間ずつに分けた単元構成。

【あおげ・体育】
スモールステップで単元や学習活動を構成。達成後には、シールで称賛。

視覚化・複線化の工夫

【５年生・体育】
オノマトペ化や動画視聴、コマ撮り写真等による技能のポイントの提示。

【3年生・総合的な学習の時間】
思考ツールと付箋紙で自分の考えを可視化させ、整理・分析。

学習の流れやポイント、自他の考え等の視覚化・複線化は、児童自身の学びの調整の具体化に役立った。

【あおげ・体育】
単元の全体の流れや系統の提示によって、本時のねらいを見える化。

共有化の工夫

【５年生・体育】
ホワイトボードで、守備位置や中継距離の共有、自他の役割自覚。

【６年生・国語】
推敲時、google スライド内の「コメント機能」を使い、編集会議。

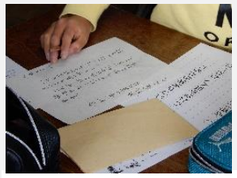
【３年生・学級活動】
Jamboard 上で、付箋紙の意見をグルーピング、自他の意見の比較。

褒め合い、比較、合意形成…共有化の工夫によって、整理・分析しやすくなり、協働の場を活性化していた。

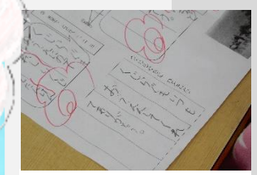
【２年生・算数】
ノートに書いた自分の考えについて、付箋を使って互いに褒め合う。

適用化・機能化の工夫

【６年生・国語】
読み書き関連単元の充実。
読む学習「『鳥獣戯画』をよむ」
⇔ 書く学習「日本文化を発信しよう」



【４年生・道徳】
保護者からのお手紙を、本時の終末に活用。
→ 実際の家庭生活へ実践意欲を高めた。



【１年生・国語】
第二次では、毎時間の終末に一言手紙を蓄積。
→第三次で手紙の形に。

学んだことを、児童自身が活用する場を設定する機能化・適用化。高い主体性を引き出せた。

ＣＳを活用し、児童が本気で思考錯誤できる実の場を設定。児童の粘り強さを高めた。

【研修の課題】

・１月に実施した全学年の学力テストを得点レベル層（ＡＢＣＤ）ごとに分析すると、特に国語科の「書くこと」「読むこと」で学力間の開きが全校的に見られた。ＵＤ化授業の更なる改善が求められる喫緊の課題点であると考える。

・ただ共同場面を設定するだけでは、自己肯定感の高まる協働とはならない。「解のない課題を解決するため」に「試行錯誤」させるような学びをつくる必要性を強く感じた。

さまざまな他者との協働

【３年生・にれの木】
市の公園緑地課と連携し、学区内の公園をＰＲ。

【４年生・道徳】
家庭と連携。道徳の授業を機に親で手紙交換。

【６年生・国語】
企業と連携。級友と Google スライド上でパンフレット共同編集。

自己肯定感の高揚

① 自己有用感

「僕は期待されている。みんなの役に立っているんだ。」

【４年生・道徳】
中心発問は少人数で協働。発表の場を確保。

【あおげ・体育】
集団達成型の目標を取入れる。チーム目標。

② 自尊感情 → 他尊・互尊感情

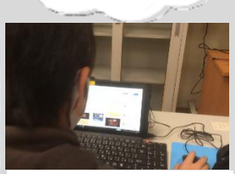
「自分にもよい所があるんだ。やればできるじゃん。」

【５年生・算数】
兄弟チームで助言と称賛。高め合わせる。

【２年生・算数】
ハンドサインや付箋紙を通して褒め合い。

③ 達成感・成就感

「ここまでできた。がんばった。やった、できた。」



【６年生・国語】
出来あがった成果物を５年生に見せ実の場に。

【１年生・国語】
練り上げたクラスの音読を終末に一斉読み。

低　互いの話に関心をもち、相手の発信を受けて話をつなげられる児童 → 中　互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめられる児童 → 高　互いの立場や意図をふまえて計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりできる児童

心あたたまる学級・なかまとの協働の中で

なかまとともに輝く・輝ける児童

【研修の成果】

・コロナ禍の中でも様々な工夫で、誰もがわかる授業と心あたたまる学級経営を実施し、各吹き出しにあるような児童の主体性を育む成果を得ることができた。

・２学期末の学校評価アンケートの結果より。

「めあてをもって自分から進んで勉強しましたか」
児童 88%、保護者 79%、教職員 94%

「わからないことがあってもあきらめずに勉強しましたか」
児童 87%、保護者 78%、教職員 93%

「他の人のために進んで働くことができますか」
児童 88%、保護者 94%、教職員 88%、地域 100%

主体性の２つの側面

自ら学びを調整しようとする側面

粘り強い取組を行おうとする側面